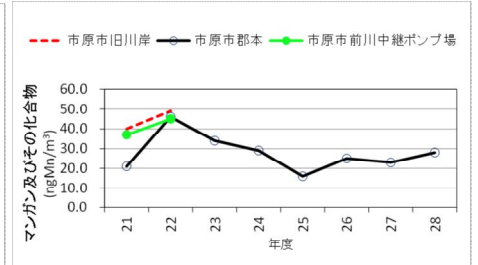
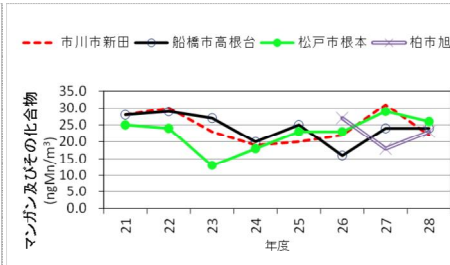
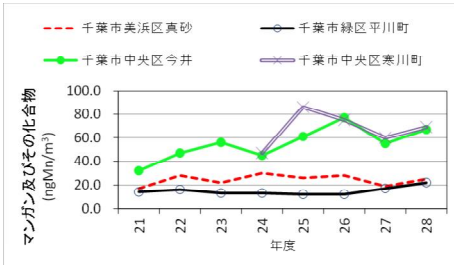
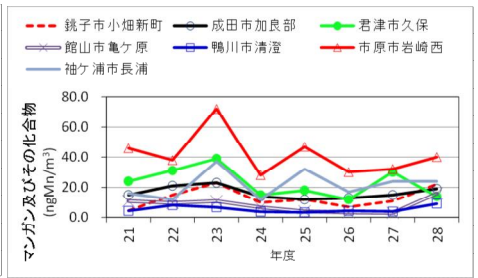
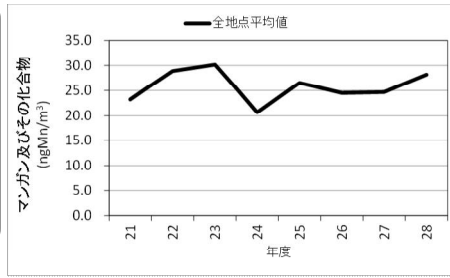
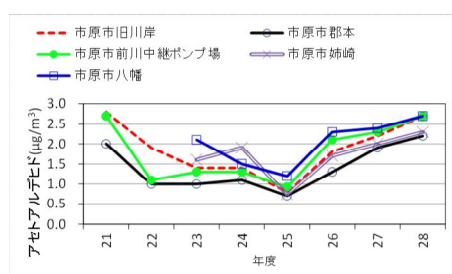
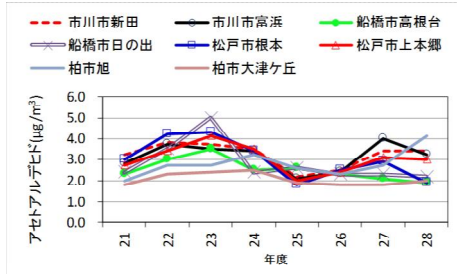
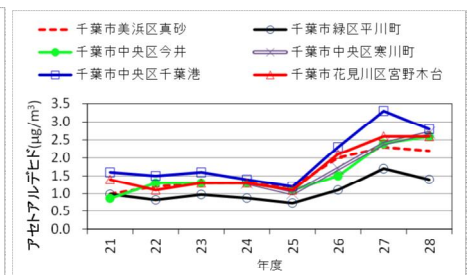
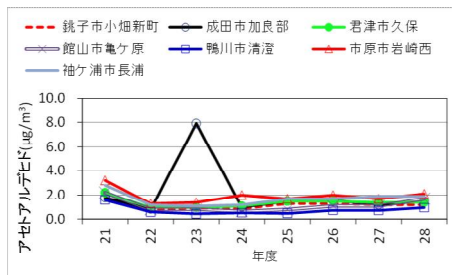
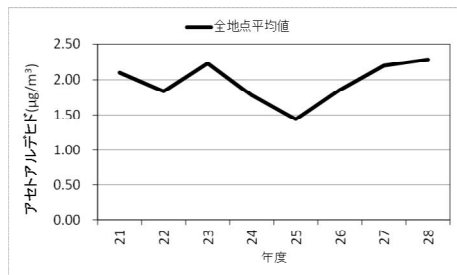


マンガン及びその化合物: 全地点平均では平成21年度から23年度にかけて緩やかに上昇し、24年度は減少、25年度再び上昇し、それ以降は横ばいで推移した。地点別でも25年度以降横ばいの傾向にあり、濃度的には、千葉市中央区今井、寒川町が高く、28年度で60ngMn/m³を超えていた。

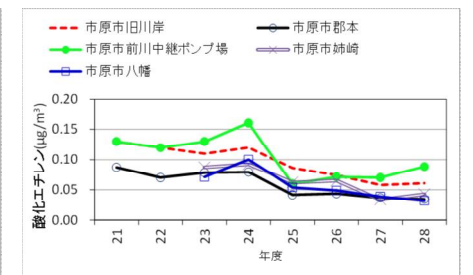
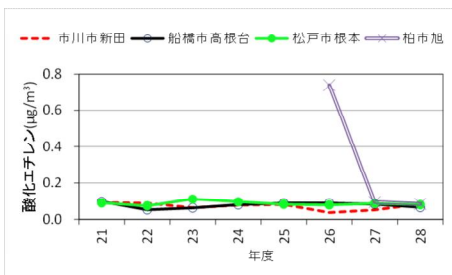
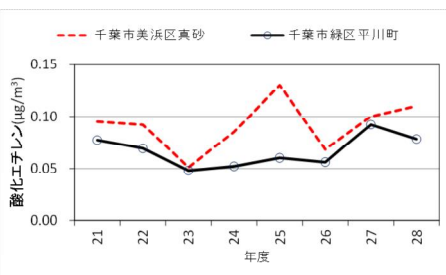
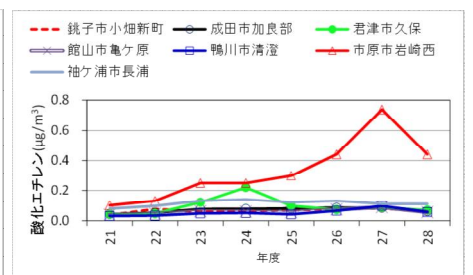
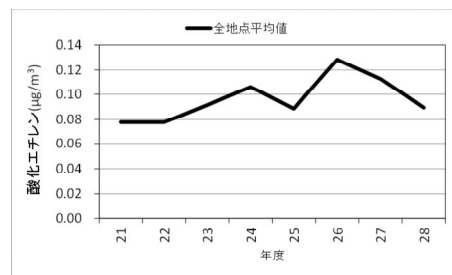


環境基準、指針値ともに設定されていない物質

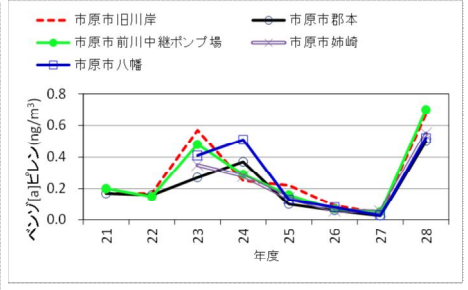
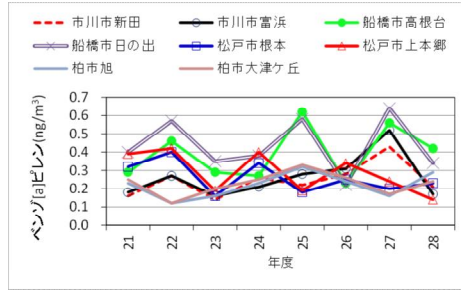
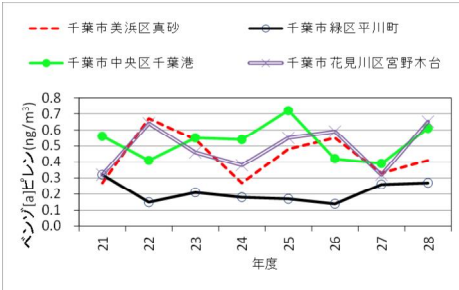
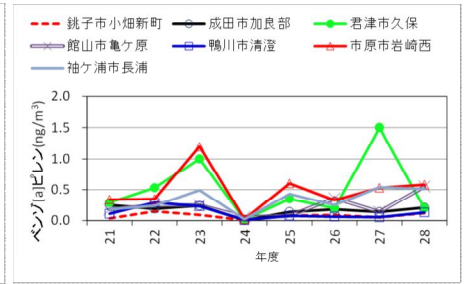
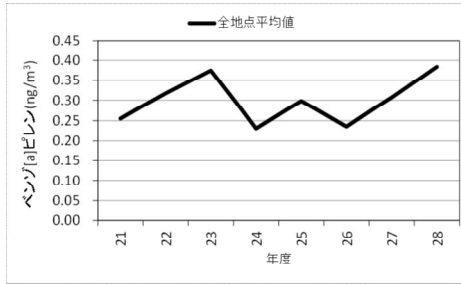
アセトアルデヒド: 全地点平均では平成23年度から25年度にかけて低下し、25年度以降上昇している。地点間の濃度差は小さく28年度では1 μg/m³から3 μg/m³の間にある。千葉市、市原市、市川市の地点は26年度以降上昇傾向にあるが、他の地点はほぼ横ばいである。



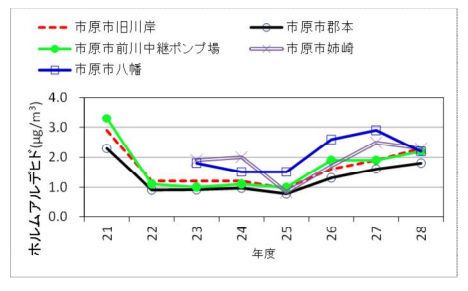
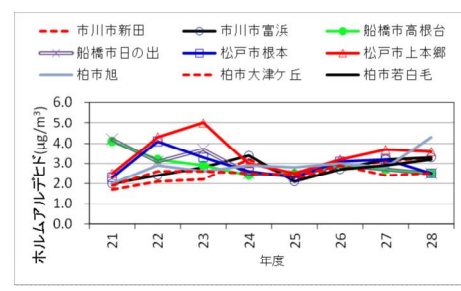
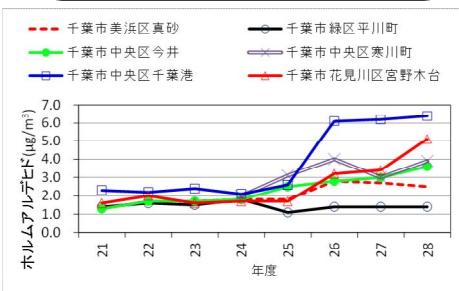
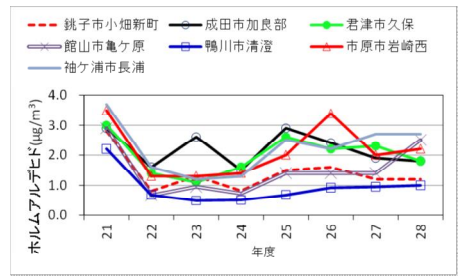
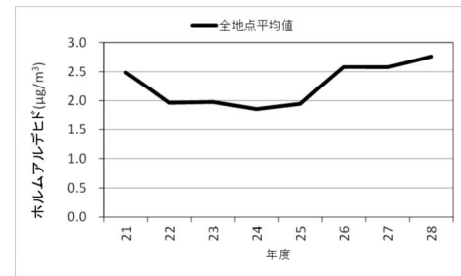
酸化エチレン: 全地点平均では平成26年度にピークがあり、その後低下した。市原市岩崎西の濃度が高く27年度まで上昇傾向にあった。柏市旭は26年度0.7 μg/m³を超えたが、以後は0.1 μg/m³以下となった。市原市の地点はやや減少傾向にある。



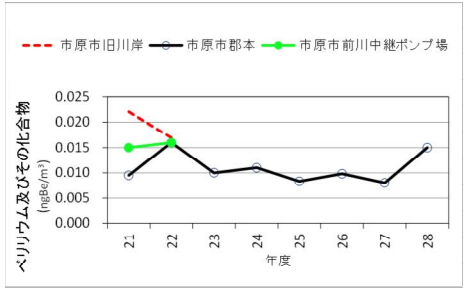
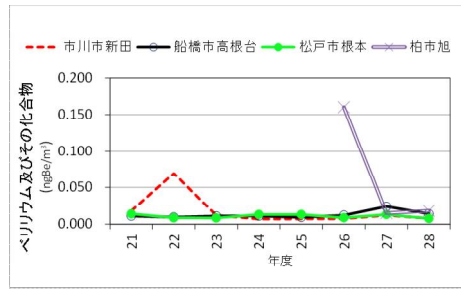
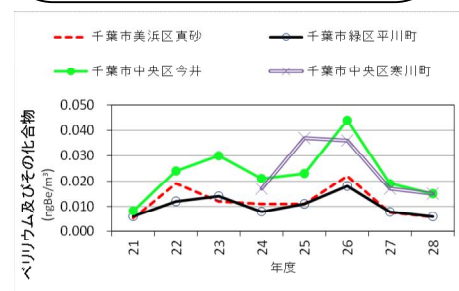
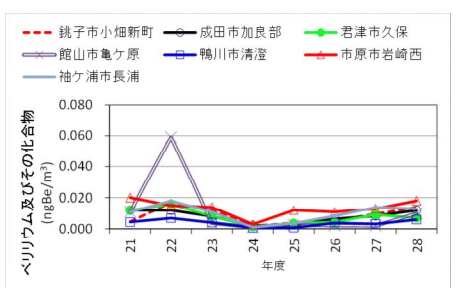
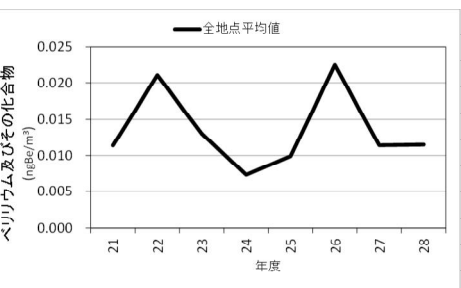
ベンゾ[a]ピレン：全地点平均では平成23年度から24年度にかけて低下し26年度以降、上昇傾向にある。各地点の濃度では、市原市の地点及び千葉市中央区千葉港、千葉市花見川区宮野木台が28年度は27年度に比べ上昇した。



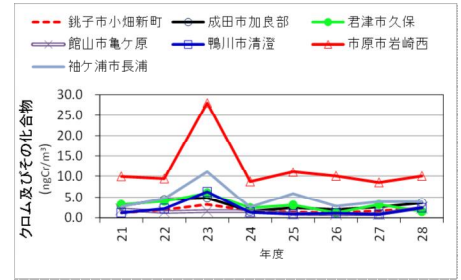
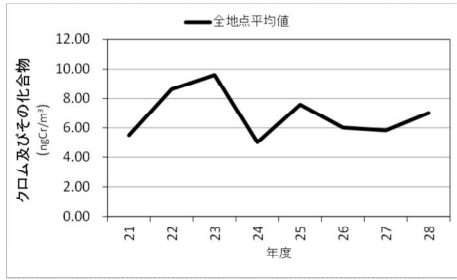
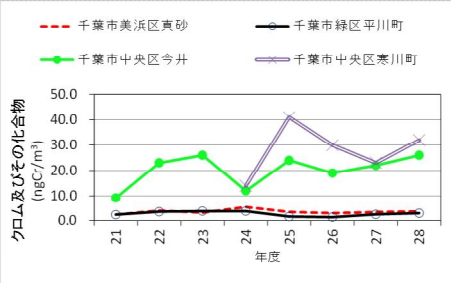
ホルムアルデヒド：全地点平均では平成22年度から25年度までは、横ばい、その後は上昇傾向にある。地点別では、25年度以降上昇傾向にあるのは、市原市の地点、千葉市中央区千葉港、千葉市花見川区宮野木台、館山市亀ヶ原であった。



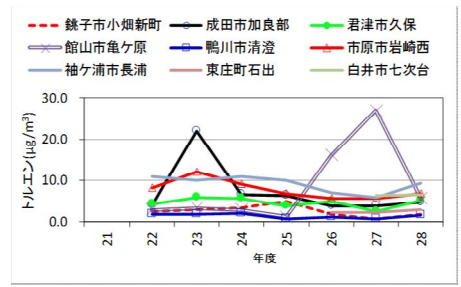
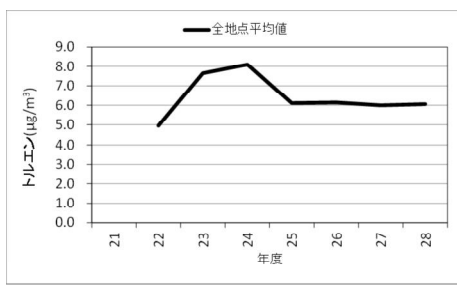
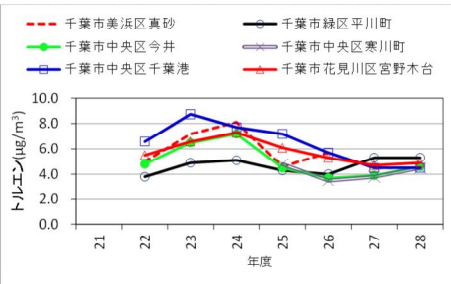
ベリリウム及びその化合物：全地点平均では、平成22、26年度に大きく上昇する変動を示した。地点別では、千葉市の地点は、23、26年度に上昇する傾向があった。また、22年度の館山亀ヶ原、市川市新田、26年度の柏市旭など単年度に高い値を示す地点があった。



クロム及びその化合物: 全地点平均では平成23年度をピークに24年度に減少し、その後はほぼ横ばいである。地点別では、市原市郡本は減少傾向にあり、他の地点は横ばい、あるいは微増の傾向にある。市原市岩崎西は23年度のみ上昇した。



トルエン: 全地点平均では平成24年度にピークとなり、25年度以降は横ばいである。地点別では、25年度以降横ばいの地点が多い。減少傾向を示したのは千葉市中央区千葉港、千葉市花見川区宮野木台、市川市新田、増加傾向を示したのは市原市旧河岸であった。



塩化メチル: 全地点平均では測定を始めた平成23年から濃度の変化は小さくほぼ横ばいである。各地点の結果も変動が小さいが、千葉、市川、船橋各市の地点が多少変動が見られた。

